

※これは添削問題です。解答は、解答用紙にご記入ください。

一

〔二〕 次の傍線(a)～(d)の動詞を、例にならって文法的に説明せよ。

例 たかい子と申すいまそがりけり ↓ラ行変格活用・連用形

(1) 痛手負うて討死する者もあり。

(2) 水におぼれて死なば死ね。

(3) 親子三人(c)念仏して居たる所に、竹の編戸をほとほと打ちたた  
く者(d)出で来たり。

『平家物語』

【二】 次の文章を読み、あとの問に答えよ。

和邇部の用光といふ<sup>(a)</sup> 楽人ありけり。\* 土佐の<sup>(b)</sup> お船遊びにくだりて、後\* 本国へのほりけるに、<sup>(c)</sup> 安芸国なにかしの<sup>(d)</sup> 泊にて、海賊おしよせたりけり。

\* 弓矢の行方知らねば、防ぎ戦ふに力なくて、\* 今は疑ひなく殺されなんと思ひて、\* ひとりきを取り出だして、\* やかたの上に<sup>(a)</sup> ぬて、「\*あの党や、\*今は沙汰に及ばず。とく何物をも取りたまへ。ただし年ごろ思ひしめたる、ひとりきの<sup>(b)</sup> 小調子といふ曲吹きて、聞かせ申さん。さることこそありしかと、後の物がたりにもしたまへ」と言ひければ、\* 宗徒の者大きな声にて、「主たち、しばし待て。かくいふ事なり。物<sup>(b)</sup>聞かん」と言ひければ、船をおさへて、おのおの<sup>(c)</sup>しづまりたるに、用光、<sup>(1)</sup>今は限りとおほゆれば、涙ながして、めでたき音を吹き出だして、思ふやうに吹きましたりけり。

海賊しづまりて言ふ事なし。よくよく聞きて、曲終るほどに、先の声にていはく、「君が船に心をかけて、寄せたりつれども、この曲の声に涙<sup>(d)</sup>落ちて、\*かたさりぬ」とて漕ぎさりにけり。たけきものの<sup>(2)</sup>ふの心を慰むる事、和歌には限らざりけり。

『十訓抄』

注 \* 楽人 雅楽を奏する人。雅楽は奈良時代以降、宮廷や寺社で奏でられた音楽。

\* 土佐 現在の高知県。

\* お船遊び 海上での土佐神社の儀式。

\* 本国 ここでは京。

\* 安芸国 現在の広島県。

\* 泊 港。

\* 弓矢の行方知らねば 弓矢の扱い方も知らないの。

\* 今は疑ひなく殺されなんぞ 今は間違いなく殺されてしまうだろう。

\* ひとりき 雅楽で用いる竹笛。

\* やかた 船の屋根付きの部屋。

\* あの党 そこにいる者たち。

\* 今は沙汰に及ばず 今は言うべきことは何もない。

\* 小調子 秘曲。

\* 宗徒の者 親分。

\* かたさりぬ (悪事を働く心が) 消えた。

問一 傍線(a)～(d)の動詞の、(i)活用の種類と、(ii)ここでの活用形を、例にならってそれぞれ記せ。

例 言ひ ↓ (i)ハ行四段活用 (ii)連用形

問二 傍線(1)を口語訳せよ(ただし、「ば」は「～なので」という意を表す接続助詞である)。

問三 傍線(2)は(何も和歌だけではないのだ)という意味だが、和歌の他にも何があると言いたいのか。漢字二字で記せ。